

平成21年度「高等学校教科指導パワーアップ事業」実施報告

1 取組の基本情報

(1) 育てたい生徒像と実践の動機

真に育成したい生徒像は、言語活動を通じて、自立した個人として集団の中で力強く豊かに生きていくことのできる「骨太」人間であり、仲間との学び合いの中で自ら問題を解決する姿勢を持ち合わせるようなたくましい個人である。

しかし、本校生徒の多くは真面目で素直な反面、教師に対して依存心が強く自立心に乏しいという特徴を持っている。教師との関わりの中で何かを求めたがる受け身的な生徒を、仲間との学び合いの中で自ら問題を解決する姿勢を持ち合わせるようなたくましい個人へと成長させていく必要性を感じている。

そこで、研究テーマを「文章の構造を意識した読解とそれに基づいた表現の効果的な指導」とし、学び合いをする上で必要になってくる他者理解とそれに基づく自己表出の力を養成することにした。

(2) 研究体制

研究企画部、研究推進部、事務部などの部署を設置し、1年次及び2年次の国語科教員を割り当てた。

また、研究内容について、公開授業等を通して指導助言を受けるために、菅原稔岡山大学教育学部教授に教科指導コンサルタントを委嘱した。

2 取組の概要（実施内容）

(1) 目的

学び合いをする上で必要になってくるのが、他者理解とそれに基づく自己表出である。他者理解を的確に行うには、文章を正確に読解し、要約する力を付けていかなければならない。また、同時に、相手が求める解答に対して適切に表現できる力を付けていかなければならない。ここでは、生徒に読解力や表現力を身に付けさせるために、次のような授業改善及び国語科としての組織的な取組の工夫改善について研究する。

① 授業改善

ア) グループ学習を取り入れた授業

イ) 言語活動を取り入れた授業

② 組織的な取組の工夫改善

ア) 国語科の指導法についての共通理解

イ) 研修体制の構築

(2) スケジュール〔平成21年度の主な取り組み〕

① グループ学習や言語活動を取り入れた授業改善（平成21年4月～平成22年2月）

ア) 初任者研修公開授業（平成21年6月）

イ) 校内公開授業（平成21年9月、平成21年10月、平成22年2月）

② 組織的な取組の工夫改善（平成21年4月～平成22年2月）

ア) 校内公開授業と研究協議

イ) 校内研修（NHK放送研修センター日本語センターによる「出張先生セミナー」（平成21年7月））

ウ) 図書館展示コーナーの開設（国語科と図書課が連携）

③ 公開授業・研究協議

ア) 第1回公開授業・研究協議（平成21年11月）

イ) 第2回公開授業・研究協議（平成22年2月）

④ パワーアップ研修等への参加

ア) 岡山県高等学校学力向上フォーラム（平成21年5月）、組織マネジメント研修（平成21年8月）

イ) 本事業公開授業（県立倉敷商業高校（平成21年7月）、平成20年度ミドルリーダーによる公開授業（平成21年9月）、県立林野高校（平成21年11

月、平成 22 年 1 月))

ウ) 先進校訪問 (県立倉敷天城中学校 (平成 21 年 7 月)、静岡県立磐田南高校・静岡県立清水東高校 (平成 21 年 7 月)、京都府立嵯峨野高校・京都市立堀川高校 (平成 21 年 10 月))

エ) 駿台教育研究セミナー (平成 21 年 8 月)

(2) 主な実践内容

① 校内公開授業

研究テーマである「文章の構造を意識した読解とそれに基づいた表現の効果的な指導」を目指しながら、グループ学習や言語活動を取り入れた授業のあり方を研究・実践するために、公開授業前を中心に、校内公開授業を実施した。

公開授業に際し、教科会議を開催して授業研究を行うとともに、グループの人数、グループ学習の活動時間、生徒相互の学び合い、学習内容の理解などに関するアンケート調査を行った。



② NHK 放送研修センター日本語センターによる「出張先生セミナー」

講師に佐々木端アナウンサーを迎えて、実習中心の講座を開き、「『音のこぼ』」の特性をふまえて、「わかりやすく的確に話す」「情報を整理し、筋道立てて、場面と相手に合わせて話す」ことなどについて演習を通して学習した。

③ 図書館展示コーナーの開設

現代文や古文の授業に関連させて、「中島敦『山月記』」「河合隼雄特集」「古今和歌集に親しもう」などの特別展示を、図書館で実施することで、読書の機会の拡大を図った。



④ 公開授業・研究協議

公開授業及び研究協議を実施し、グループ学習や言語活動を取り入れた授業のあり方に関する研究成果を公開した。公開授業・研究協議等を通して、他校の国語科教員や教科指導コンサルタント等から貴重な授業改善に向けた助言を得ることができ、国語指導力の向上に向けた取組の工夫改善が促進された。

ア) 第 1 回公開授業・研究協議 (平成 21 年 11 月)

内容 国語総合：岩井克人『広告の形而上学』

対象 1 年次生

目標

- ・資本主義社会において、広告の価値がどのように生み出されているのかをキーセンテンスやキーワードを利用したり、具体例を分析したりすることによって理解することができる。
- ・広告における「形而上学的な逆説」を理解し、グループでの話し合いを通じてわかりやすく表現しようとする。



イ) 第2回公開授業・研究協議（平成22年2月）

内容 古典：紀貫之『古今和歌集仮名序〈やまと歌とは〉〈六歌仙〉』

対象 2年次生

- 目標
- ・表現に即して文章の内容を正確に読み取り、筆者の主張を理解することができる。
 - ・「話し合う」「発表する」「聞く」「書く」「意見を交換する」といった諸活動を通し、和歌の鑑賞を深めながら、紀貫之の主張に対する反論を試みる。



3 取組の特色

- (1) 「高等学校教科指導パワーアップ事業」の実施においては、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した。
- (2) 新学習指導要領の改善事項に、「言語活動の充実」がある。「高等学校教科指導パワーアップ事業」における本校の取組は、「言語活動」について先行実施した取組である。
- (3) グループ学習の形態を取り入れ、「論述したり討論したりする」「説明したり議論したりする」「作品について互いに批評し合う」「他者と協同して問題を解決しようとする」「まとめたり表現したりする」などの「言語活動」を実践した。

4 取組の成果（効果）

(1) 授業改善について

アンケート調査から、グループ学習を取り入れた授業に対して、多くの生徒が意欲的に取り組んだことや、また意識の面からも学力の向上につながっている、読解力や表現力の育成に効果的であると感じていることがわかった。

今後も実践的研究を継続し、グループ学習を通して、国語科における「言語活動の充実」について取り組もうという意識が醸成された。

【生徒の自由記述から】

- ・他の人の様々な意見、見方に触れて、効果的な学習ができた。
- ・みんなで意見を出し合うことで互いの理解がよく深まった。
- ・普段考えないようなことを、深く考えることができた。
- ・プレゼンテーションの練習になった。

【事前アンケート】

① 読解の勉強に関して、効果的に学習してきましたか

	1年次生	2年次生
よくしてきた	4%	0%
わりとしてきた	35%	21%
あまりしてこなかった	52%	67%
全くしてこなかった	9%	12%

② 表現の勉強に関して、効果的に学習してきましたか

	1年次生	2年次生
よくしてきた	6%	1%
わりとしてきた	31%	12%
あまりしてこなかった	52%	63%
全くしてこなかった	11%	24%

③ グループ学習について意欲的にしてきましたか

	1年次生	2年次
よくしてきた	26%	5%
わりとしてきた	50%	55%
あまりしてこなかった	20%	35%
全くしてこなかった	4%	5%

【事後アンケート】

① この1年間のグループ学習は効果的にできましたか

	1年次生	2年次生
十分できた	15%	16%
まあまあできた	67%	68%
あまりできなかった	16%	15%
全くできなかった	2%	1%

③ この1年間のグループ学習で読解に関して効果的に学習できましたか

	1年次生	2年次生
十分できた	11%	13%
まあまあできた	74%	71%
あまりできなかった	13%	14%
全くできなかった	2%	2%

② この1年間のグループ学習は学力の向上につながったと思いますか

	1年次生	2年次生
十分つながった	18%	14%
まあまあつながった	61%	64%
あまりつながらなかった	18%	19%
全くつながらなかった	3%	3%

④ この1年間のグループ学習で表現に関して効果的に学習できましたか

	1年次生	2年次生
十分できた	13%	10%
まあまあできた	62%	65%
あまりできなかった	24%	24%
全くできなかった	1%	1%

(2) 組織的な取組の工夫改善について

① 国語科の指導法についての共通理解

学習指導において、従来授業者個々の取り組みで終わっていたものが、研究テーマに関して教科会議を開くことで、国語科全体の取り組みとしての理解の共有を図ることができた。また、公開授業に向けて国語科あげての協力態勢が取れたことで、国語科としての一体感が増し、授業改善の意欲の高まりが見られた。

② 研修体制の構築

校内公開授業実施後に、授業のねらいや構成、授業の中でのグループ学習の時間配分、生徒相互の学び合いなどについて、教科会議を開いて研究協議を行った。教科会議には、教科指導コンサルタント（菅原稔岡山大学教育学部教授）または指導主事に指導・助言者として参加を依頼した。

公開授業及び研究協議を実施することで、教材理解や指導法について国語科としての共通理解ができた。

5 課題等

(1) 授業改善について

アンケート結果（自由記述など）より、本校の実態に応じたグループ学習の形態や実施時間（時間配分）等の更なる研究が必要である。

また、グループ学習の効果と読解力・表現力の関係を明らかにすることや、集団（グループ）と個人の評価をどのように区別していくかも今後の課題である。

【生徒の自由記述から】

- ・話し合う内容（テーマ）が不明確であった。
- ・話し合う時間が不足していた。
- ・グループ内の役割分担（司会（リーダー））ができていなかった。
- ・グループの発表について、きちんと評価してほしい。

(2) 組織的な取組の工夫改善について

「高等学校教科指導パワーアップ事業」の実施において、指導案作成や研究協議を教科会議の中で行ってきたが、このような組織的な取組を、今後も継続していくことが必要である。

そのためには、教科内に研究体制を今後も維持するとともに、研究テーマを設定し、常に授業改善・授業力の向上に取り組んでいくことが肝要である。